No.128

こんにちは！教育委員です





「小規模特認校制度検討委員会」設置
―特色ある複式教育の在り方を求めて―

今金町における特色ある複式教育の在り方を検討する小規模特認校検討委員会が設置されました。橘宣雄教育委員長より委嘱された10名が委員です。委員長には今金中学校長の萩野雅彦氏が選任されました。



（橘委員長から萩野校長へ諮問書の手交）



（合同会議の様子）

小規模特認校制度とは，自然環境に恵まれた小規模の小学校や中学校に，市街地に住んでいる児童生徒が通学できるしくみです。通学区域に関わりなく，誰でも自由に入学できる小・中学校を設定し，通学制度の弾力的運用を図る制度です。今金町の場合は，今金小学校区の児童が，種川小学校（現児童数16名）に入学できるようになります。

この制度を実現するために，本町唯一の複式校である種川小学校区に，地域住民10名からなるプロジェクトチームも発足しました。種川自治会長の吉田諭氏にチーフをお願いしました。

4月24日（木）には，小規模特認校検討委員会とプロジェクトチームの合同会議が開催されました。今後は，8月末の答申を目指して検討会議や保護者アンケート，先進地視察などが行われます。平成27年度からの導入を目指しています。

読書と作文のまち創作活動体験
―羊毛フェルトで読書感想フィギュアづくり―

読書と作文のまちを推進する今金の指導助言を頂いている北海道教育大学札幌校の鹿内信善教授から新たな学びの提案を頂きました。

読書した後で読書感想文を書かせると読書嫌いになることがあります。しかし，読書した後で，印象に残ったことをフィギュアにさせると，みんな楽しんでやることができます。みんなで作って，たくさん並べると「読書と作文のまち今金」の「フィギュアランド」ができます。（鹿内教授談）

新たな題材を頂いて5月31日，6月1日の2日間，今金町民センターを会場に商工会女性部や読書と作文のまちワーキングチームのメンバーがワークショップに挑みました。講師は，チーム鹿内のおひとりで教材デザイナーの石田ゆき先生です。

最初に「デジタルミシンの使い方」を体験しました。パソコンでデザインしたものをミシンが刺しゅうしてくれる優れもの。今金町の特産品アスパラを刺しゅうしてみました。刺しゅうしている最中はミシンの指示に従いミシン糸の色を変えていきます。ミシンの繊細な動きで形が浮かびあがります。完成した立派なアスパラを見て参加者から「このミシンは本当におりこうさんだねぇ」との一言。この瞬間ミシンには「おりこうさん」と名前がつきました。ミシンは今金町のまちづくりに貢献してくれることでしょう。

次に，羊毛フェルトを使用した刺しゅうを体験しました。名前のイニシャルをデザイン化し，羊毛用の針を使用して羊毛を布にチクチクと埋め込み個性豊かな作品を創りあげました。

研修2日目は羊毛を使った「フィギュア作り」を体験しました。作品のお題はリンゴです。羊毛を丸めながら針でチクチク圧縮していくとリンゴが完成しました。参加者は2日間楽しみながらたくさんの体験をすることが出来ました。今回の研修では「創造を形にする」読書と作文のまちの新しい視点を頂きました。ご指導頂きました石田先生，本当にありがとうございました。この研修の様子は図書室に研修紹介ブースを作成し，情報発信しています。



図書室「研修紹介ブース」



命名「おりこうさん」



石田先生（写真右）と体験する参加者

今金での研修に先立つ5月24日（土）にはワーキングチームのメンバー9名が，教育大学札幌校を訪問しました。今後の取り組みについて鹿内教授からご指導やご助言を頂くと共に，教材制作に必要なミシン1台をサプライズプレゼントして頂きました。ありがとうございました。

発　行：今金町教育委員の会
〒049-4393　北海道瀬棚郡今金町字今金48-1
TEL:0137-82-3488【No.128】H26(2014).6.18
E-mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

委員リレー寄稿
「歳時記」



今月は，川上准子 教育委員です。

6を『む』，4を『し』，と語呂合わせにした
『むし歯予防デー』！

カレンダーが６月になると思わず意識してしまうのが６月４日！

1928 年から 1938 年まで日本歯科医師会が実施していた虫歯予防に関する記念日です。

現在では厚生労働省と文部科学省そして日本歯科医師会が共同で６月４日から６月 10 日を歯の衛生週間としています。

私は子どもが生まれるまで歯科医院に勤めていましたので，毎年６月になると周知ポスターを待合室に掲示しブラッシング指導に力が入ったのを思い出します。

歯科医院＝「キーンという音や薬のにおいが嫌」とか「痛いから行きたくない」などあまり良い印象をもたれませんが，昔から人々は歯の治療にとても関心をもっていたようです。

古代文明のシュメール (現在のイラク，クウェート南部) やエジプトには，すでに歯科に関する考え方が発達していました。

また，現在のイタリア トスカーナ地方からは金のブリッジや金冠が出土されたり古代ローマ貴婦人が入れ歯をしていたこともわかっています。

日本にも「お歯黒」の文化があり，既婚婦人のしるしとしてばかりではなく虫歯予防の見地からも有効であったと言われています。

現代の歯科治療は，昔とは比べものにならないほどの技術や機材の進歩で随分苦痛が軽減されています。それでもなかなか早期治療にならないのは，直接命にかかわる病気ではないので後回しにする傾向があるからなのでしょう…。

しかし悪くなった歯は自然に治ることはありません。治療が遅れるほど痛みも時間も治療費も増すばかりです。そして，放っておくと身体に悪影響を与えることもあります。心臓病・腎炎・高血圧・神経病・喘息・リューマチ・じんましん・肩こり・頭痛，等々。

原因不明で，治療しても改善しなかった症状が，虫歯や歯周病，咬み合わせや義歯の調整などをすることですっかり体調が良くなったという患者さんもたくさんいらっしゃいます。

「歯はＨｈａ！」
明るい笑顔で楽しい食卓！



13 歳頃に出そろう永久歯は長い人生を共にするパートナーといえます。大切にお付き合いしていかなくてはなりません。

「8020」は,「80 歳になっても歯を 20 本残そう！そうすれば自分の歯でなんでも食べられる！」という健康推進のスローガンです。

食べることは生きていく上で基本です。歯を大切にする→食べることができる→食に関心をもつ→心身の健康につながるというサイクルが成り立ちます。このような健全な食生活ができる人を育てるのも食育のひとつです。



（今金中学校お弁当づくり授業の様子）

今金町の取り組みに『今金中学校を卒業したらお弁当作れるぞ！プロジェクト』があります。これには様々なねらいがありこれからの成果が期待されます。今後歯の健康にも意識をむけ実践してほしいと思います。

今金町特産の男爵いもはカリウム・カルシウム・ビタミンを含む歯に良い食材のひとつです。是非じゃがいも料理のレパートリーを増やし，お弁当作りを手始めに一家団欒の食卓を…。

健康な歯で栄養バランスのとれた美味しい食事をいただきましょう！

